

事例4

< 事例概要 >

出血

- ① 50 歳代、IgA腎症、慢性腎不全で透析中。脾臓癌、両側胸水の患者。
- ② シェント閉塞のため、血液浄化用カテーテル（トリプルルーメン）を留置予定。
- ③ BMI 14.7 kg/m²。脱水あり。超音波で内頸静脈の虚脱あり。抗血栓薬の使用は無。
- ④ 右内頸静脈よりリアルタイム超音波ガイド下で長針を使用し2回穿刺したが、逆血を確認できず。3回目は、作図法で穿刺しガイドワイヤーを20 cm挿入、ダイレーターを5 cm挿入時に抵抗を感じたが、静脈通過時の抵抗と判断しさらに5 cm挿入。カテーテルを挿入すると、一部のルートより血液が噴出、動脈内の誤留置と判断し抜去。抜去から10分後に心肺停止し、約1時間半後に死亡。
- ⑤ 死因は、右総頸動脈あるいは右鎖骨下動脈損傷による胸腔内出血。ダイレーターが動脈を穿通、胸腔へ迷入（疑い）。死亡時画像診断（Ai）有、解剖無。